

日本労働年鑑 第25集 1953年版
The Labour Year Book of Japan 1953

第二部 労働運動

第四編 その他の社会運動

第一章 平和擁護運動

(一)

世界平和擁護運動は、一九五〇年末にひらかれた第二回平和擁護世界大会を契機として、さらに新しい段階へすすんだ(本年鑑第二四集参照)。この動きに対応して、世界労連も、一九五〇年一月一日から一週間にわたってブカレストでひらかれた執行局会議で、つぎのような全世界の勤労者にたいするアピールを採択した。

戦争の脅威が大きくなってきた。戦争の道をはばむことができるのはただ人民だけである。あなたたち数百万の男女勤労者は人類の偉大な力である。運命はあなたたちがにぎっているのである。

あなたたちは戦争に反対して、直ちに、しかも効果的にたたかわねばならない。なぜなら戦争の一切の負担はまず第一にあなたたちの上にのしかかってくるのだから。

世界労連はあなたたちにむかい、平和を守り、あなたたちの子供の生命を守り、あなたたちの創造的な労働の果実を守るために活発に行動するよう訴える。

第二回平和擁護世界大会は地球上の数十億にのぼる普通人の意志を発表した。かれらは、帝国主義者たちの犯罪行為にたいし、だんこ抵抗するために平和を守る仕事に着手したのである。このためワルシャワ大会はすぐに役立つ行動綱領をつくった。もしこの綱領が実行されるなら平和は保証されるであろう。

各国の平和擁護者とともに各種の原子兵器、細菌兵器、化学兵器、毒ガス、無線操縦兵器、その他一切の大量殺人兵器の厳禁をかちとれ。戦争放火者にたいして警告しよう。これらの兵器を最初に使ったものは人類により戦争犯罪人の烙印をおされ、その人非人道的な悪業の責任をとわれて厳罰に処せられるであろう。

ただちに行動を展開して自由と独立を守る朝鮮と中国に対する戦争放火者の犯罪計画をうちくたごう。あらゆる武力—陸・海・空軍の縮少のために、また全般的軍縮にたいする厳格な国際管理をつくるためにたたかえ。勤労する人々よ、兵器生産を拒否せよ。戦争こそは死であり、破滅であり、無数の犠牲と人々の苦難であることを記憶せよ。

武力侵略の断罪、諸民族の内政にたいする干渉の断罪を要求せよ。

各民族は自由と独立の権利をもっている。即時停戦と外国軍の朝鮮撤退のために、南北朝鮮の内乱を朝鮮人民代表者の参加のもとで平和的に解決させるために、だんことして行動をおこせ。

第一次世界大戦の恐怖を経験し、自分の家庭をこの恐怖から守りたいと思っている人は、だれでも朝鮮人民の運命に無関心でおられるものではなく、また無関心でおられるはずがない。朝鮮人民は自分自身の運命を自由に決定しようと正当にも希望しているのである。

全世界の勤労者のみなさん、帝国主義者たちはふたたびドイツと日本に侵略国の役割をあてがい、血なまぐさい戦争をはじめめるために必要な工業と軍隊を、これら両国に復活させている。

用心しよう、勤労人民の血を代価にしてその支配をきずき、自分の富をふやそうと努力している帝国主義者の犯罪計画に反対せよ。

ナチスの野蛮人と日本の軍国主義者たちがどんな恐怖をひきおこしたか、それがどんな苦しい結果をもたらし、いまなお多くの国の労働者階級をくるしめているかを思いおこせ。

平和の敵がおこなう嘘八百の宣伝をばくろし、それを禁止し、新戦争の宣伝責任者を厳罰に処するよう要求せよ。

各国の人民はその政治制度とは無関係に平和な協同をおこない友好関係を維持することができるし、それを望んでいる。各国間の正常な貿易関係を復活発展させ、共同の平和斗争における相互理解と信頼をつくるために諸国民間の文化的むすびつきを強化するよう要求せよ。

世界労連は全労働組合組織および全労働者にむかい、国連にあてた第二回平和擁護世界大会のメッセージを支持するよう訴える。共同の力によってはじめて平和政策、諸国民間の友好的協同が実現されるのである。各国の労働組合よ、企業および官庁における平和擁護委員会の活動を活発にせよ。平和擁護委員会がまだないところには、それをつくれ。勤労大衆をひろく平和擁護運動に参加させよ。

男女勤労者のみなさん、世界労連はあなたたちにむかい、平和のための斗争、あなたたちの緊急な生活要求を満足させ、あなたたちの社会的・経済的状态をよくするための斗争のなかで陣列の統一をさらに強くするよう訴える。平和のための斗争は生活条件をよくするための斗争ときりはなすことはできない。だからこの斗争の成功は勤労者の民族的・国際的統一ときりはなすことができない。

勤労者統一のため強力な運動をおこし、労働者階級と農民の共同斗争を強化せよ。広汎な平和擁護者大衆および平和を愛する進歩勢力全体と緊密に協同して行動せよ。

戦争放火者と労働組合内に巣くうその手先をだんこととしてばくろせよ。かれらは労働者階級を分裂させ、その力をよわめ、新しい戦争がたやすくはじめられるように努力しているのである。

各勤労者の義務は平和を守り戦争に反対して闘うことである。

すべてを平和擁護のために。

諸民族の平和と友好万才。

この世界労連執行局のアピールは、一九五一年における日本労働者階級の平和擁護運動にとって、重要な指針となった。

日本労働年鑑 第25集 1953年版

発行 1952年11月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年8月10日公開開始